



Title	HUSCAPレター 第20号 : 私の研究 : 岡本健 大学院国際広報メディア・観光学院博士課程3年 「コンテンツツーリズム研究序説 : 情報社会における観光の新たなあり方とその研究概念の構築」
Issue Date	2011-08
Doc URL	<a href="http://hdl.handle.net/2115/88209">http://hdl.handle.net/2115/88209</a>
Type	periodical
File Information	hletter20.pdf



[Instructions for use](#)

北海道大学学術成果コレクション

# HUSCAPレター

学術成果コレクション (HUSCAP) は、北海道大学の研究者や大学院生などが著した学術論文、学会発表資料、教育資料などを電子ファイルで保存し、WEB で公開するものです。誰でも、無料で読むことができます。



## 私の研究

岡本 健

大学院国際広報メディア・観光学院博士課程3年

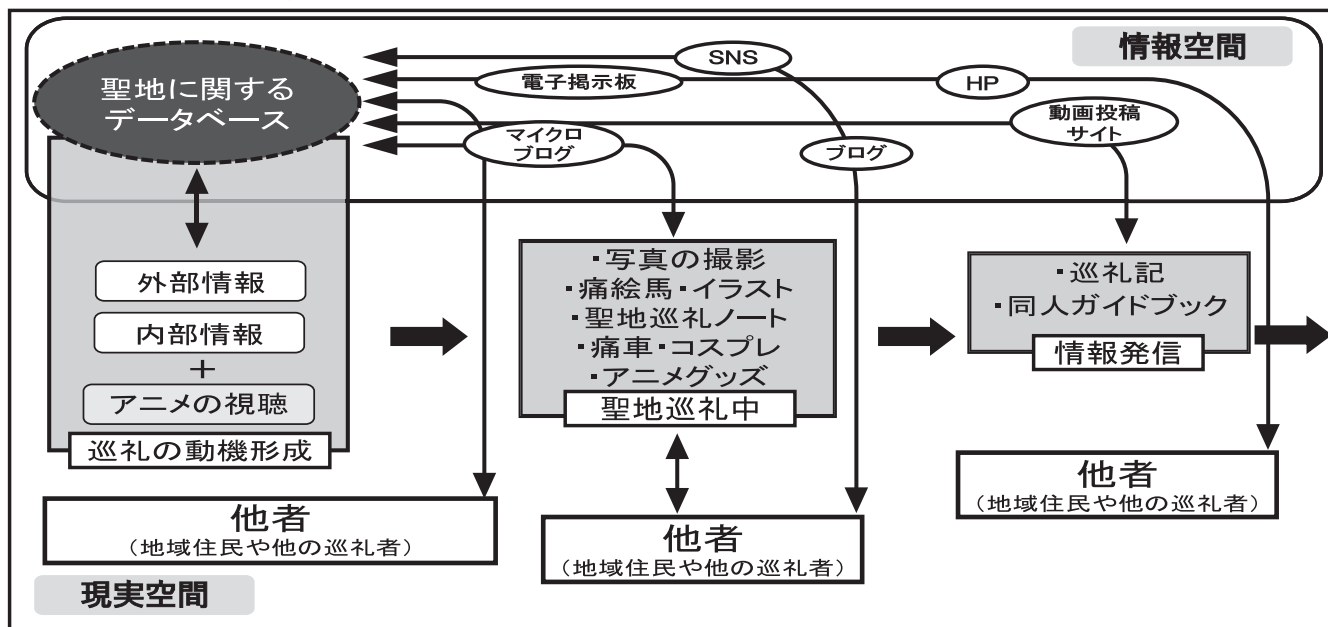
情報社会における旅行コミュニケーションの研究

私は情報社会において、旅行者は他者とどのようなコミュニケーションを行っているのか、そのコミュニケーションにどのような特徴があるのかについて研究しています。

具体的には、アニメ聖地巡礼という、アニメの背景として描かれた場所を探し出して訪れる行動を調査していて、アニメ作品「らき☆すた」の舞台である埼玉県の鷲宮神社や、アニメ作品「けいおん！」の舞台とされている滋賀県の豊郷小学校旧校舍群で、旅行に関わるコミュニケーションの様態を現地調査しています。

図1はアニメ聖地巡礼行動における旅行コミュニケーションの全体像です。(※1) 現実空間だけでなく、情報空間でも盛んに情報のやりとりが行われている様子が見てとれます。中には、アニメファンと地域住民が協力してイベントを実施するような場合もあります。(※2)

図1. アニメ聖地巡礼の旅行コミュニケーション





この研究は2008年頃から取り組んできましたが、当時はこういった事例に対し、眉をひそめる方もいて、肩身の狭い思いもしました。アニメに関する行動ということで、オタク的な、極めて狭い分野の研究と思われたようです。確かにアニメ聖地巡礼の研究と見ると狭い分野ですが、この行動を情報社会の面から捉えると、現代社会の旅行行動の特徴が反映されているように私には思われました。

そんな時、私の研究活動を支えてくれたのはHUSCAPでした。学会発表で用いたスライドや、発表要旨、叢書、論文など、様々な場面で発表した成果をHUSCAPで公開していたところ、研究者やまちおこしの実践者、学外の大学院生から続々と連絡が入り、研究会での発表や講演への招待、書籍や論文集への執筆依頼をいただき、自分の研究を多角的に批判、検討する機会を得ることができました。

また、学外の学生から「自分もアニメ聖地巡礼について研究したかったけれど、周囲に分かってもらえなかった。岡本さんの研究をHUSCAPで見つけて希望が持てた」という旨の連絡も複数いただきました。

調査にご協力いただいた方々や社会一般の方々に対して知見を還元する手段としてもHUSCAPは大変便利で、アニメでまちおこしをしようと計画している地域の方々から「論文を参考にさせてもらっている」と連絡をいただいたこともあります。HUSCAPによって、自分の研究が多くの人の力になっていることを実感しています。

## 北海道大学ピア・サポートの実践

私は研究活動と同時に、北海道大学ピア・サポートという活動で学生代表を務めています。(※3)

北海道大学ピア・サポートは情報教育館の2階にあるピア・サポート室を活動拠点として、学生からの各種相談を受けたり、学生に資する企画を実施する組織です。こうした活動を通して、学内に「つながり」を創出することを目的としています。図示すると図2のとおりで、ピア・サポート室を中心に、ピア・サポーター、学生、大学関連組織の相互作用が生まれている様子がわかります。

この活動についても、HUSCAPに発表用スライドや報告書などを登録していました。そのおかげで、他大学のピア・サポーターの方から活動見学の依頼やピア・サポートに関する講演依頼をいただきました。

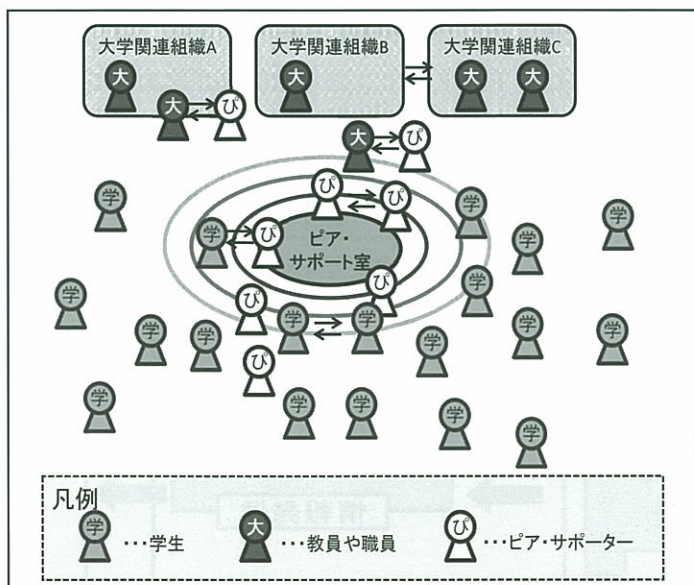
## つながりを作り出すHUSCAP

私はHUSCAPを通して研究や実践の成果を公表していくことで、数多くの、そして多様な方々とのつながりを得ています。北海道大学の中でのつながりはもちろんですが、学外の学生、全国の研究者など、多くの人々との関わりを通じて、自分の研究や実践を深めています。

大学院生は研究に打ち込むあまり視野狭窄になってしまふ場合がありますが、社会との関わりが重要な研究分野においては研究自体の質にも影響を与えかねません。

HUSCAPは私と社会をつなぎ、常に自分を見直す機会をくれる重要な回路となっています。

図2. 学内のつながりを創出する北海道大学ピア・サポート



- (※1) 岡本健(2011)「交流の回路としての観光—アニメ聖地巡礼から考える情報社会の旅行コミュニケーション」『人工知能学会誌』Vol.26, No.3, pp.256-263.
- (※2) 岡本健(2011)「新たなつながりを創出する情報社会の旅行コミュニケーション：コミュニティオブインタレストと地域コミュニティの出会い」『KG/GP 社会学批評 別冊：共同研究成果論集』pp.75-95. <http://hdl.handle.net/2115/44957>
- (※3) 岡本健(2011)「北海道大学ピア・サポートの誕生と展開：つながり創出型ピア・サポートの提案」『北海道大学ピア・サポート活動報告書(平成22年度版)』pp.5-25. <http://hdl.handle.net/2115/45441>

HUSCAPで岡本さんの最新の研究成果を読むことができます。

＜コンテンツツウリズム研究序説：

情報社会における観光の新たなあり方とその研究概念の構築＞

コンテンツツウリズム研究 = Web-Journal of Contents Tourism Studies, 001:1-10  
<http://hdl.handle.net/2115/44701>